

「この地域をきちんと知ってもらいたいという気持ちがありますよね。」

四之宮

(弊誌88号を見て)私これ読みましたよ。このなかで森田(浩二)さんと亀岡(徹)さんの地域おこしの視点に非常に同感する部分があつて、覚えとるんです。

ありがとうございます。
では早速、貴局管内の状況から。

四之宮

この地域はとにかくいいものがありますよ。しかし複合的視点でものを見てないと、単に経済的価値でこの地域を見たら、本当につまらん地域やと思うんです。特に宇和島市内なんかは、ルート図がないからわかりにくいと言われるけれども、ルート図を作るといことは、あるひとつの価値観でまわしていきますよね。あまりにもいいものがたくさんあり過ぎるから、あなたが持っている感性、そういうもので発見してくださいよというのが、この地域やと思います。

これね、宇和島観光に関するアンケート調査をやりましてね。去年、地方局でボランティアグループを作ったんですけど、そのメンバーが土日つぶして、宇和島

に着く特急に乗り込んで調査したんです。観光客なんかほとんど来てないんじゃないかと心配しよつたんですよ。ところが483人中、観光に112人降りてるんですよ。闇雲に推定数値だけ言つたつて、対策は練れませんかね。

これ以外にも、若い人たちが頑張つてくれて、いろいろやつてますよ。

そつした取り組みのきつかけは？

四之宮

考えていることは、地方局そのものの存在感を問われてますよね。そこから出発したんです。地方局の存在感を示さなかつたら、いま東中南予の3局体制と言ひよるけれども、ほんとは要らんという議論が出てきますよ。人に来てもらう体制になつとかないと、建前論言ひよつたら、地方局など相手にしてくれませんからね。そのためにも地域の人の中に溶け込んでいって、汗かいて、地域の実態は何かということを理解しながら進んでいかないといかんと思うんですよ。県庁の縦ルートだけで物事を進めていき



愛媛県宇和島地方局長
四之宮 忠正氏

よつたら、それこそ地方局は要りませんからね。

ある人から、地方局はもつと住民に関わつてほしいなと言われたんです。私はそれを目指しとるんです。そのためには職員そのものが意識改革をね、こういうことをやることによつて少しずつ意識変えていくんです。それで初めて達成した喜びとかね。

南予地域活性化が重点施策に位置付けられて変わったことは？

四之宮 いちばんの利点というのはですね、去年まではボランティアでしょ。命令

できんのですよ。だから私も、現地対策本部ができたときに、金もないのに形式的なもんかなーと思いついて、ハツと気がついた。違うなど。これからうちの全職員に対して南予地域活性化のために、仕事として命令できるんですよ。これが大きいですよ。外に向かつても言えますよ。

地域活性化のカギは？

四之宮 いまあるものをきちんと整理して、それをPRする部分と、長期的に展望する部分の二つに分けないと。ずーっと長期的な展望だけ話して、総論だけで報告書作って終わりというパターンの繰り返しにならないように。今あるものを、いかに活用するかというのが、ずっとこの地域に欠けた視点やと思います。

PRが欠けていますよね。どうしてもこの南予地域の方々は、自分のことを外に向かつてやるというのが不得意な文化ですから。ただ誤解しないでほしいのは、文化というのはこの地域に馴染んだ、風土というのがあって、そのやり方がいちばんいいわけだから、そこを勘違いしないように。この地域こそオンリーワンだと、そういう線で打ち出すべきですよ。例えば嫌いなのは、ここが「宇和島の地中海」とかね、「なんとかの小京都」とかね、

そういう発想は嫌いなんですよ。宇和島は宇和島なんです。

それと、たぶん愛媛県の中で最先端を走っている高齢化。すでに40%を超えている地域もありますよ。全体で40%超えるのはまだ先ですけど、その頃には地域によって五割を超えるところも出てくるわけです。そのときにいちばん望ましい地域の姿はどうあるべきかというのを、考えていかないと大変なことになりますよ。闇雲に競争社会を持ち込んでいいかといったら、そんなもんやないと思うんですよ。きちんと足元を見つめていって。

みんなが言う議論の元の間違ひというのは、宇和島だけがそうなってると思ってるところで、あらゆるところが将来こういう地域になるんですよ。この圏域というのは最先端走っていて、試行錯誤しながらやっていますからね。

いまある文化というのが、お年寄りにとって、決して悪い文化じゃない。と同時に、お年寄りがたくさん占めた社会の中で、お年寄りの考え方が反映されやすいくらいが出てきますよね。そのときに高齢者の方々に気をつけてほしいのは、将来見据えた正しい選択をしないと、どうしても高齢者の方々のいうのは、現状維持というのを考えがちになりますから、若い人にとっては、非常に大変になることやと思うんです。

最後にひと言。

四之宮 いやー、せっかくね、うちの若い方々がボランティアで頑張ってもらったけん、そういう方々の事をきちんと言っておかないと。彼らに報いるためにもね。というのがね、総論の段階ではいいんやけど、何が足らんか言うたら行動なんですよ。行動するためには訓練してないと、なかなか動けないですよ。何かしようと思ったら、リアクションありますからね。それに耐えてくれる人材を育てなかつたら、絶対何も起こってこないですよ。総論が楽なんですよ。この地域、いつもそうだと思うから。あとはいかに活動するか、行動論なんです。行動論にいくと難しくなっていくから、そこをみんな避けてしまつて。これからのいろんな関わり合いというのは、きちんと自分なりの視点持つて関わっていかないと。総論で終わったら、この地域の人は、「あ、この人は総論の人や」ということで、それなりに対応してくれまますから。それで満足して帰つたらいかん。この地域の人は、シビアというか、自分の地位をお持ちですから。われわれもよく気を付けないかんのだけれども、そこらあたりのことをきちんとして、ついてきてもらうためには、それなりの覚悟が要りますよね。